

R.N. 2016年(2017年)卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

私は、1年次よりシティブロモーションPJという実習に所属し、北九州市民のシビックプライドの醸成と向上を目的に、北九州市役所様の応援を頂きながら「北九州市に愛着と誇りが生まれる」ためのイベントやワークショップの企画運営、PTA協議会研修会のファシリテーション等を行いました。キタキュージャックという数日間を使ったイベントは延べ400人以上の学生や市民の方に届くものとなり、当時は苦しいばかりでしたが「分からないまま踏み出してみる。やめたくなくなったところから、もうひと頑張り、やり抜いてみる。」という有難い経験と学びを頂くことができました。2年次には、PJメンバーや担当教員と話し合い、実習名をキタキュープロモーションPJに変更。より北九州市の学生にアプローチするビジョンを掲げ、北九州市タウンミーティング2015の企画運営、第一回ゆめ未来ワークのビジョンづくりやブース運営等を行いました。

また実習外では、カンボジアのフリースクールでのボランティア活動やNPOカタリバの教育活動等に参画していました。とはいえ、活動よりも毎日楽しかったのはバイト(巨過市場の前にあった老舗のおでん屋台)だったような気がします。

一方、就活は先延ばし、先延ばし。自分が何をして生きていきたいのか、本当にやりたいことは何か漠然としたまま就活することに抵抗があり、4年次に1年間休学を選択。それまでの活動を通して出会い強く惹かれていた「対話」を実際に仕事としているプロ(ファシリテーター)の下で過ごしました。

当時誰にも言っていなかった(はず?)の目標は、「地創生だけで盛り上がりつつあるイベントでしょ」「意識高い系ね〜」と受け取られない、やる意味のある企画を実施することでした。休学直前、学生時代最後の企画となった「キタキュー集会」では他大学の学生数人とコアチームを作り、市内10大学から出展者と参加者を募って、大学時代を充実させるために学生同士が繋がるワークショップとパーティーを実施。他大学生とゼロから企画・集客・運営をした二日間は、思い出深いものとなっています。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

現在、(株)はまげんという小さな会社で、漁村・離島地域活性化や六次産業化の支援、水産業・漁業協同組合向けコンサルの仕事をしています。

しかし、もともと海や魚には一切興味がなく、身内に漁業関係の仕事をしている人もいませんでした。学生時代からずっと私の真ん中にあるのは「対話」。対話や合意形成が本当に必要な場所はどこだろう?と考え、私なりに行きつきたのが一次産業の世界だったという流れです。就活をせずに卒業式を迎えた後、地域おこし協力隊で「一次産業支援、地域商社立ち上げスタッフ」の募集があり、そこで1年間働きました(今もその町で暮しています)。その際にご縁を頂いた今の会社で、元々は水産研究や技術職としてキャリアを重ねていた代表とともに一歩一歩取り組みを展開させている昨今です。

学生時代に教育系の活動を多く重ねたことも今に繋がっています。福岡県・長崎県・福井県・北海道等の大学生に漁村を体感してもらう滞在型プログラムを開催したり、長崎大学の現場実践型コースのお世話をしたりしています。来春には、福岡県内の小さな町で旅館を再生した宿をオープンする予定です。「なんで?」と思うかもしれませんが、全ての取り組みは根っこで繋がっているので、ご縁があれば聞いてくれたら嬉しいです!

また、個人事業としては、企業、行政、教育現場の研修や対話型組織開発のファシリテーション、合意形成支援、グラフィックファシリテーション講座などを行っています。

現役生へのメッセージ

私自身、自分にとってじっくりくるキャリアに出会うまでずっとモヤモヤした日々でしたが、こうして「自分の人生を使いたいと思える仕事」「心を砕ける仕事」に出会えたことを本当に喜ばしく思っています。学生時代、目の前のことに一生懸命(いつもではないけれど…)過ごしたから、その都度の気づきや成長があり、今に至れたと感じます。

学内であれ学外であれ家であれ街であれ、自分にとってかけがえのない時間を存分に味わうために、すこし勇気がある場面では「踏み込んでみる」ことをお勧めします!



10大学に声をかけて開催した学生時代最後の企画イベント。たくさんの人を巻き込み一緒にやるためには、多様な個性を持ったコアチームが必要だと身をもって知れた経験。



産官学連携をはじめ、立場や価値観の異なる方との共創PJをマネジメントしています。なにが大切なのか? 問いを掘り下げる力は学生時代に身についた胆力です。